All Technologies are for Happiness of People

全ての工学は人々の幸せのために

社会貢献活動2：自ら考え行動する市民社会の担い手を育成！

東　宏乃
社会貢献活動支援室

実習の始まりと位置づけ

「社会貢献活動1」の実習を終えた実習生がもう一段階先に進む科目「社会貢献活動2」は、2008年度から履修生の登録が始まり、活動が開始された。その年は、ちょうど筆者が社会貢献活動支援室に着任した年だが、それから6年、最近「社会貢献活動1」の履修生の中に、最初から「社会貢献活動2」にまで進みたいという学生が増えてきており、実習先様のご理解とご協力を得るためにも、これまでの活動をまとめる必要性を感じたので、ここに報告する。

教職志望の1年生・Iがビスケットワークショップで堂々と進行中。

もともとは、実習テーマ「車椅子ケアネット」（旧称「車椅子の点検整備」）で活動していた実習生が、福祉施設「横浜市桂台地域ケアプラザ」の活動区域である横浜市栄区だけでなく、大学のある「藤沢市でこそ」車椅子の点検整備を行いたいと、「自分たちで考えて行動する」をモットーに活動を広げて行ったのが始まりである。実習生は、不具合のある車椅子を点検整備させてくれる藤沢市内の福祉施設を、スタッフの助けを得て開拓し、連絡や打ち合わせも自主的に行い、放課後の支援室がかなり賑やかになった時期がある程であった。

同時期に、「社会貢献活動」の中核を担う実習テーマ「福祉ものづくり」では、障がい者の労働補助具、余暇活動補助具を作って、「○○○装置」として福祉施設に納品するのだが、その後、現場で利用されるにつれて改良を依頼され、「○○○装置2号機」などを作る必要が生じて、「社会貢献活動2」に進む学生が増えていった。

さらに、実習自体をおもしろく、もっとよくしたい、後輩に伝えていきたいと、活動を引き継ぐために延長されていったのが、実習テーマ「高齢者パソコン講座サポート」であろう。そして、「もっと活動を担いたい」という気持ちは、他の実習テーマでも広がりを見せ、子ども・教育分野の「辻堂こども広場」や「辻堂のヤング☆スクエア」では、「社会貢献活動1」で実習先の実態を学び、対象となる子ども達の特質を知り、その上で、「自分だったら何かできるだろう」と、活動を企画・立案するように発展したのが「社会貢献活動2」となっていった。

「社会貢献活動」の『授業案内』では、「社会貢献活動2」の目的について、「本授業は、『社会貢献活動1』の履修を終えた学生ひとり一人が、それぞれの力をさらに伸ばす主体的な学びを実現するために、新たに50時間の社会貢献活動を継続しながら取り組む活動です。履修生は、自ら活動の目標を設定して、あたかも一つのプロジェクトを企画実行するつもりで実習に臨んでほしいです。（中略）地域社会との関わりの中で試行錯誤し、工学や技術について深く考え、広い意味での市民社会および市民科学の担い手を育成することも目指しています。」と掲げている。つまり、「社会貢献活動2」は「社会貢献活動1」（50時間）を2回行って100時間の実習をするのではなく、「社会貢

献活動1」以上に重みのある50時間を行う活動だと言ってよい。

実習開始のプロセス

「社会貢献活動2」では、履修登録をする前に、「私のプロジェクト」という登録シートを記入することが義務づけられている。何をどのように、誰と協働しながら、いつごろから開始するのか、「社会貢献活動1」を終えたからこそ見えてくる目標に向け、実習先の理解も事前に得て、実習生はこのシートを記入する。そして「私のプロジェクト」のシートを社会貢献活動支援室に提出し、テクニカルアドバイザーの了解を得て履修登録をする。

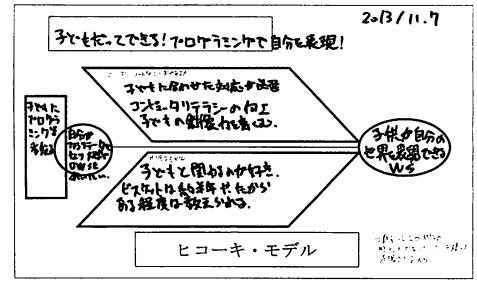

図1　ヒコーキモデル

大事なのは、事前研修に相当する時期(前期は5月末、後期は10月末)に、「企画立案ワークショップ」に参加して、企画を立てることである。「企画立案ワークショップ」は、具体的には、「9マスシートで企画立案」や「ヒコーキモデルで企画立案」などのアクティビティを行い、実習生が個人やグループで企画を練っていくことになる。(このワークショップのファシリテーターは筆者が務める。)実習生の個人的な思いが先走っても「ヒコーキ」は墜落するばかりだし、また、実習の現場にニーズがなかったり、実習生にスキルやポテンシャルがなかったりすれば、「ヒコーキ」はそもそも飛ばない。そんなところを確認するのが「企画立案ワークショップ」となる。参考までに、2013年度後期の「ビスケットワークショップ」の「ヒコーキモデル」(図1)を載せておく。

一方、実習先の皆様にとって、「社会貢献活動2」は、実習生の一層のコミットを期待して喜んでいただける場合もあるが、実際は負担な場合もある。実際、実習テーマ「茅ケ崎里山保全」では、実習先の茅ケ崎里山公園倶楽部の中核メンバーから、本学の実習生に対応するスタッフを増員してくださるなどの措置がとられた。

表1「社会貢献活動2」による実習の活動例

活動番号	実習テーマ	開始年度	終了年度	活動の具体的内容
B5004	車椅子ケアネット (旧称)車椅子の点検整備	2008	2012	藤沢市の福祉施設の車椅子の訪問点検整備 小学校や放課後キッズクラブ等での車椅子試乗体験会
B2001	福祉ものづくり	2008	継続中	障がい者の使う労働補助具・余暇活動補助具の製作
A2002	「ふれあいの一歩」イベント支援	2008	2011	交流活動の写真展の企画開催等
B1001	高齢者パソコン講座「湘南なぎさ荘」「やすらぎ荘」	2008	継続中	学生主体の講座の開設および教材の作成
B7004	小学校理科授業の協力	2008	2009	テコの原理を教える授業の企画実施
A1002	辻堂子ども広場	2009	2009	琥珀みがき教室の企画実施
A3008	太陽の家障がい者スポーツ	2009	2009	サウンドテーブルテニスのサポートと実践
A3006	電動車椅子サッカー	2009	2011	審判の資格取得、大学祭での公開練習試合の実施
A4002	茅ケ崎里山保全	2009	2012	竹炭の浄化作用の検証実験、稲の植え方と収量の関係検証実験等
A4005	引地川の環境保護	2010	2011	鵠沼海岸クリーンアップのボランティアリーダー 指標生物ハグロトンボ調査
B5005	PCリユース「パソコン工房」	2010	2011	小中学校へのカットモデルの寄贈、 放課後キッズクラブでのPC分解教室
A1005	辻堂のヤング☆スクエア	2010	2012	バスボム(発泡入浴剤)作り、ペットボトルで潜水艦作り
A5004	東日本地震災害ボランティア	2011	2012	RQ市民災害救援センターでの後方支援(物資輸送・広報班記録係)
A4003	東京港野鳥公園整備	2011	2012	公園の排水路のパックテストによる水質調査
A3004	車いすテニス大会サポート	2011	2012	大会運営のボランティアリーダー
A1004	放課後キッズクラブ	2012	2012	タグラグビー体験会の企画実施
A4001	二宮町葛川クリーンアップ	2012	2012	「葛川をきれいにする会」のホームページ作成
B2002	ユニバーサルカヌー体験会	2013	2013	体験会の運営ボランティアリーダー
B7006	ビスケットワークショップ	2013	継続中	大学のパソコンルームを活用した近隣の小学生対象のワークショップの企画実施

「社会貢献活動2」の具体例

さて、「社会貢献活動2」の実際の活動を具体的に見て行こう。2008年度より2013年度まで、70名の実習生が「社会貢献活動2」に進み、活動した実習テーマは19に上った(表1参照)。

実習テーマ「茅ケ崎里山保全」の「社会貢献活動2」は、ある実習生Kの疑問が元になって始まった。茅ケ崎里山公園倶楽部では、竹林から間引いた竹を利用して竹炭を焼き、公園祭りで市民に廉価で販売し、その時、竹炭の脱臭効果や浄水効果を謳っていたが、本当なのだろうか?と、疑問を持ち、調べた方が良いとKは提案したのである。その問いをTなど代々の実習生が引き継ぎ、「社会貢献活動2」の活動として竹炭が水道水中の残留塩素を除去するかどうかの簡易実験を行うことになった。結果として、「水　おいしくなります!」と題した実験結果を示したパネルを展示し、竹炭を公園祭りで販売できた。

また、実習テーマ「茅ケ崎里山保全」では、竹炭の実験の後は、田んぼに植える稲について、苗を1本植えにする場合と2本植えにする場合と収量が違うのかどうかの検証実験も行った。このように、工学部の学生だからこそできる活動を行い社会貢献を果たした。

また、最近の例であるが、実習「ビスケットワークショップ」の場合、「社会貢献活動1」の段階では、実習先が用意したワークショップのアシスタントを務めるが、「社会貢献活動2」では、本学のパソコンルームを活用して近隣の小学生を募集しワークショップを行い、その企画・立案からファシリテーターまでを実習生が担う活動を行った。これについては、実習生の自主性とある種の覚悟というようなものが伝わってきた。

高齢者パソコン講座でマンツーマンの丁寧な説明をする実習生。

「社会貢献活動2」に進んだI(情報工学科1年)は、「社会貢献活動2」に進むにあたって、「将来は教師になりたいという夢がある。だからこの活動で必要となった、子どもにわかりやすい言葉で話しかけるという配慮ができる教師になりたい。『社会貢献活動1』では、まだまだ言葉選びがおかしかったり、保護者との会話ができていなかったりと、足りないことだらけだったが、だからこそその反省を踏まえて、『社会貢献活動2』に進みたいと思う。」と述べていた。

実習生の成長と今後の展望

「社会貢献活動2」に進んだ実習生は、自ら成長する。「企画立案能力」、「文書作成能力」、「プレゼンテーション能力」はいうに及ばず、何より、「自らの言葉で体験を語り発信する実習生」が誕生するのである。

それは、体験学習のもつ教育的な可能性による。ある識者は、「社会貢献活動2」は、「自ら活動することで自分も相手も見えてくる」活動だと表現している。つまり、「社会貢献活動1」は実習先様の指導をいただく活動であるが、「社会貢献活動2」は、他ならぬ実習生が主人公になる活動なのだと言えよう。

実習テーマ「高齢者パソコン講座サポート」のJ(コンピュータ応用学科3年)は「自分の中にある、コンピュータについての知識を全力で引き出して、できるだけ高齢者の方たちにわかり易い言葉を選びながら、自分の力を出していきました。自分はコミュニケーション能力も高いと思っていますので、その点においても沢山の方とお話をし、パソコン講座を飽きさせないようにも力を出していきました。」と頼もしい報告をしている。

しかし、そのような教育は手間がかかる。受け入れ実習先様の理解、および担当教員・社会貢献活動支援室スタッフの下支えがあって成り立つ活動なので、受け入れられる「社会貢献活動2」は、年間に6人～10人が限度だとも言える。しかし、実習生の成長が著しく、「社会貢献活動2」は、「実習としての醍醐味」のある活動であり、教育活動として可能性に満ちている。今後も「社会貢献活動2」の実習生を支援して行きたいと、改めて思う次第である。